

事例集

伊勢志摩サミットでは、多くの県民の皆さんに活躍いただき、たくさんの成果が生まれました！

【おもてなし大作戦の県内全市町での展開】

- ・クリーンアップ作戦 キックオフイベントへの参加者約7,000名 6万人以上が活動
- ・花いっぱい作戦 スタートセレモニーへの参加者約3,000名 飾花数11万本以上

【外国語案内ボランティアの活躍】

- 1,003名応募。277名活動。

【配偶者プログラムでの参加】延べ1,488名

【官民協働による取組】

- 官民で協力してテロ等を未然に防止するための取組「テロ対策パートナーシップ」(4.4機関が参加) など

【多様な皆さんの参加】

- ・配偶者プログラム(女性)
 - 海女によるお出迎えや交流85名 女将団体によるお出迎え9名
- ・首脳神宮訪問での参加(子ども・若者)
 - 小学生による植樹のお手伝い20名 幼稚園児によるお出迎え46名
- ・配偶者プログラム(子ども・若者) 食物調理科生徒等による食事の提供11名
- ・ジュニア・サミットでの参加(子ども・若者) 延べ5,188名
- ・配偶者プログラム(障がい者)
 - 【お菓子の提供】シフォンケーキ、サブレ
 - 【パラスポーツ体験】約50名
- ・贈呈品(障がい者)
 - 【総理夫人から首脳等配偶者への贈呈品ラッピング】 バッグ など

その他にも県産食材、県産品などが大活躍し、たくさんの成果がありました！

【県産食材等の使用】

- ・首脳会議や配偶者プログラム、IMCにおいて、伊勢エビや伊勢マグロ、アワビ等の海産物、松阪牛や伊賀牛、伊勢茶等の農畜産物、さらには日本酒、加工品など、県内26市町から、少なくとも269品目の県産食材等の使用
- ・首脳会議用円卓に尾鷲ひのきが使用されたほか、会議用机・椅子などに少なくとも42品目の県産品、食器類の使用 など

県民の皆さんが今後さらに活躍していただけるよう、
行政も環境整備を行っていきます。
三重の未来をいっしょに創っていきましょう。



伊勢志摩サミット
三重県民会旗

「伊勢志摩サミット三重県民宣言」

おもてなし、おかげさま、崇敬、寛容、もののあはれ、不易流行、常若、自然との共生……。これらは、伊勢神宮をはじめ、私たちのふるさと三重において、悠久の歴史の中、育まれてきた日本人を象徴する文化である。

文化とは、人類が自らの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体である。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、相互の交流によって発展する。そして、時代を超えて伝承されていく。日本人を象徴する文化が三重で育まれてきたことは、いわば、三重が「日本の文化聖地」であることを示すものである。

伊勢志摩サミットは、私たち三重県民の「心」と「行動」に変化をもたらした。伊勢志摩サミットの成功は、先人達が時代や文化を自らの手で築き上げたように、まぎれもなく、三重県民一人ひとりが、自らの手で、そして一丸となって築き上げたものである。

これまで、私たち三重県民は、穏やかであるがゆえに“ほどほど”な県民性だと評されることもあった。サミットを経て、積極的に行動し、変化を生み出すチャンスが到来している。このようなチャンスは二度と来ない。今を生きる私たち自身のために、そして未来の三重県民のために、今ここから挑戦する。

伊勢志摩サミットを成功に導いた私たち三重県民なら、必ずできる。

私たちはこれまでの歴史の中で、「多様性への寛容や交流」、「自然との共生」、「伝統・文化の創造と発展」、「安全で平和な社会への祈り」を実践してきた。また、G7伊勢志摩首脳宣言で示されたような世界的課題に対しても果敢に取り組んできた。こういった経験と、サミットを成功に導いた経験や自信、そして「日本の文化聖地」としての誇りを持ち続けながら、私たちの手で、三重の新たな未来を築き上げるのである。

私たち三重県民一人ひとりが、新たな一歩を踏み出す決意として、ここに宣言する。

2016年11月27日

【4つの決意】

- 1 自分とは違うことを価値と認め合い、国内にとどまらず、さまざまな国のさまざまな立場の人たちとつながって、誰もが挑戦、活躍できる社会にします。【親和】
- 1 美しい自然をはじめとする豊かな環境を守り育み、共生して、持続可能な社会にします。【調和】
- 1 三重の伝統・文化を、学び、伝え、創造し、発展させ、心豊かな社会にします。【和の文化】
- 1 安全・安心な社会をつくりながら、平和を強く希求していきます。【平和】

※前文における「文化」の定義は、大辞泉による。



【行動】

1 自分とは違うことを価値と認め合い、国内にとどまらず、さまざまな国のさまざまな立場の人たちとつながって、誰もが挑戦、活躍できる社会にします。

○国籍、性別、考え方、年齢などの「違い」を「価値」と認め付き合います。

○郷土への誇りを持ち、さまざまな国の人と積極的に交流します。

○世界に関心を向けて、地球規模で考え、行動します。

○すべての人が能力を発揮し活躍できる環境をつくります。

○サミットでの行動力、成功体験を生かして、新しいことに挑戦します。

【あなたの行動】

1 美しい自然をはじめとする豊かな環境を守り育み、共生して、持続可能な社会にします。

○海、川、森林などの自然環境がいま以上に美しく豊かとなるよう、守り育てます。

○自然とふれあい、自然を身近に知り、学びます。

○限りある資源を大切にし、省エネルギーに努めます。

○ごみの減量、再使用や再生利用に取り組みます。

○環境への負荷を少なくするための技術革新に取り組み、また、環境にやさしい製品を使用します。

【あなたの行動】

1 三重の伝統・文化を、学び、伝え、創造し、発展させ、心豊かな社会にします。

○伝統行事や祭りに積極的に参加し、三重の伝統・文化に触れ、学び、その素晴らしさを発信します。

○他の文化との交流等により三重の文化を発展させ、魅力ある文化を生み出します。

○地産地消や三重の食材の発信により、三重の食文化を伝えます。

○「おかげさま」という感謝の心で人に接します。

○三重を訪れた人を温かくおもてなしします。

【あなたの行動】

1 安全・安心な社会をつくりながら、平和を強く希求していきます。

○さまざまな立場の人と協力し、犯罪や事故等のない安全・安心なまちをつくります。

○自然災害から、自らの身は自ら守るとともに地域のみんなで助け合って防災対策に取り組みます。

○平和への第一歩として、家族や友人、近所、職場など周囲の人を大切にします。

○人と意見が違う場合であっても、意見を尊重し、話し合いで解決します。

○地球上のすべてのものを自分の子どもと思い、大切にします。

○日々の生活において平和とは何かを考え、できることから取り組んでいきます。

【あなたの行動】

あなたの行動が三重の未来につながります
あなたはどんなことをしていきますか？



伊勢志摩サミット・アーカイブ事業

～伊勢志摩サミットを契機とした県民等の活躍事例～



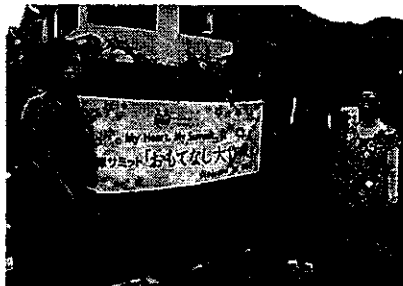
伊勢志摩サミットのレガシーを三重の未来に生かすため、サミットを契機として活躍されている県民の皆さんの取組の具体事例を収集、整理し、アーカイブを作成する。

活躍事例を県内外へ情報発信するなど、様々な取組に活用することで、さらなる県民の皆さんの活躍につなげていく。

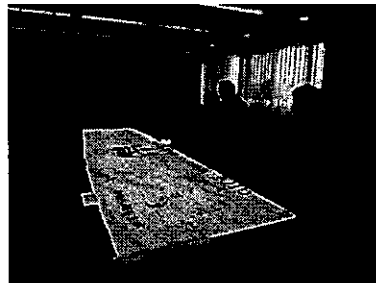
活躍事例の具体例

- ・サミットで活用された県産品の生産者などのサミット後の取組
- ・サミットや関連事業に参加された方々のサミット後の取組
- ・サミット協賛・応援事業をはじめ、県民会議にご支援いただいた方々のサミット後の取組
- ・直接サミットに関わらなかった方々がサミットを契機に新たに始めた取組

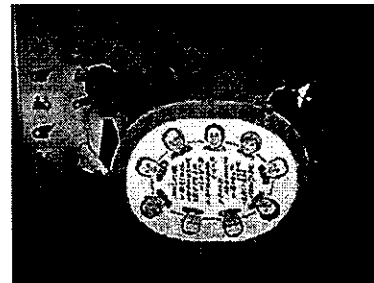
(例) サミットを契機として、サミット後も取組を継続されている皆さん



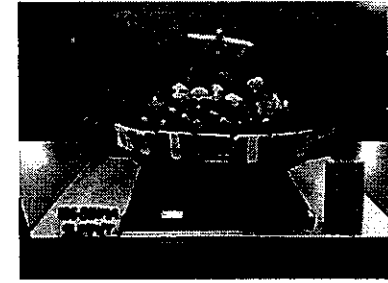
花いっぱい作戦に参加された方々



各地の太鼓演奏会でサミット応援リレーメッセージを集めた取組



首脳の似顔絵と詩のパネルを作成し各地で展示した取組



サミットがきっかけで始まった福祉団体とドイツ大使館との交流 (写真は大使へ贈呈された陶芸作品)

1 アーカイブの作成

(1) 県民会議の事業に協力いただいた団体等のサミット後の取組状況についての情報収集、市町や各団体等への活躍事例の照会などを行い、取組の具体事例を収集、整理する。

(2) 職員が当事者を個別に訪問し、詳細のヒアリングやインタビューの撮影等を行う。

2 アーカイブの活用

(1) 県ホームページにインタビュー映像を掲載し、合わせてSNSで情報発信する。

(2) 収集した活躍事例の情報を他部局と情報共有し、様々な分野・場面での活用につなげる。

(3) 次回開催地への紹介など、今後様々な取組に活用していく。

伊勢志摩サミット記念館（仮称）について

1 設置目的

伊勢志摩サミット開催を記念し、サミットの概要や使用された調度品・県産材等の紹介を行うことなどにより、サミットのレガシー（資産）を次世代に引き継ぐ場として、伊勢志摩サミット記念館（仮称）（以下「記念館」という。）を設置します。

2 設置場所

賢島駅2階（約295.7㎡ 別紙参照）

3 オープン時期

平成29年5月下旬（予定）

4 基本機能

伊勢志摩サミットの概要を写真、映像、現物等で展示するとともに、賢島を起点とした周遊観光のための情報発信機能や次世代を担う子どもたちの学びの場を創出する機能を有するものとします。

また、来訪者に飲食及び物販を記念館や記念館と一体的に整備する喫茶スペースで提供することにより駅及び記念館利用者の利便性を満たす空間を創出します。

5 記念館の整備及び運営

（1）記念館の整備

記念館の設置に係る整備（賢島駅2階改修工事及び内装・展示設営等）は、伊勢志摩サミット三重県民会議（以下「県民会議」という。）が実施し、その費用は県民会議が負担します。

（2）記念館の運営

記念館の運営は、志摩市が実施し、その費用は志摩市が負担します。

運営に当たっては、賢島駅2階の記念館設置箇所を近鉄（以下、近鉄グループホールディングス株式会社、近畿日本鉄道株式会社等、近鉄グループ企業について、いずれもすべて「近鉄」と表記。）から志摩市が借り受けます。

記念館の休館日、開館時間及び入館料については、以下①～③のとおり準備を進めており、志摩市の「伊勢志摩サミット記念館の設置及び管理に関する条例」案の成立を以って正式に決定する予定です。

①休館日

原則年中無休

②開館時間

午前9時から午後5時まで

③入館料

無料

6 記念館の概要（案）

（1）展示内容

サミット当日の雰囲気を感じていただくため、サミットで実際に使用した円卓や贈呈品等を展示するとともに、国際メディアセンターアネックスで使用された部材（檜柱、木製簾、木製黒壁）を記念館において使用します。

また、リピーターの確保を図るため、企画展示も行います。

（展示例）

- ①誘致活動に関する写真パネル展示
- ②誘致決定時の写真パネル展示
- ③首脳等身大記念写真等パネル展示
- ④首脳会議用円卓・椅子の実物展示
- ⑤公式記録の展示（写真パネル、動画）
- ⑥観光情報の発信
- ⑦首脳等への贈呈品等の実物展示
（カップ&ソーサー、文箱&真珠付ボールペン、コアウツドの置時計等）
- ⑧サミットで使用された食材等の写真パネル展示
- ⑨県民によるおもてなしの様子写真パネル展示

（2）体験型展示の充実

子どもたちにとって記念館が学習機会の場として魅力的なものとなるように、例えば、首脳会議用円卓・椅子に触れていただきサミットの雰囲気を体感していただくなど、体験型要素を取り入れた展示の充実を図ります。

（3）飲食・物販

県民会議、近鉄、志摩市の三者間でその具体的な運営方法等について調整中です（飲食については近鉄に担っていただくこととしています）。

7 設置期間

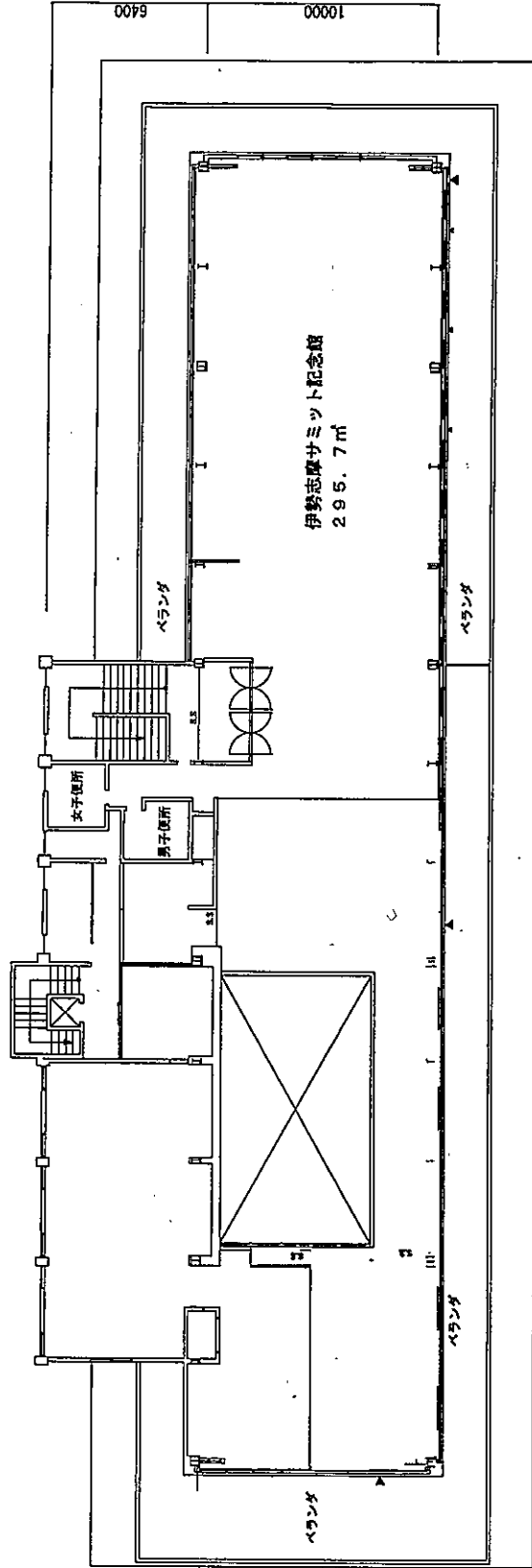
日本における次期サミットの開催年まで設置することとし、その後の対応については当該設置期間の終了までの間に、県民会議、近鉄、志摩市の三者間で利用状況等を勘案し決定することとします。

8 階段昇降機の設置について

記念館へのエレベータの設置について、県民会議、近鉄、志摩市の三者間で検討を行ってきましたが、設置には賢島駅の大規模改修工事が必要であること等から、階段昇降機（車椅子ごと階段昇降可能なタイプ）を設置することとしています（オープン後、年内に設置見込）。

9 今後のスケジュール（予定）

- ・ 3月下旬：内装・展示案検討終了、賢島駅2階改修工事完了
- ・ 4月上旬：内装・展示設営着手
- ・ 5月下旬：内装・展示設営完了、記念館オープン



4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250	4250
12,750						12,750						8,500	
8,500													8,500
55,250													

